

会計決算を認定

平成 27 年
9 月 2 日 定例会

26 年度決算認識について問う！

9 月定例会は、8 月 27 日から 9 月 25 日までの 30 日間を会期として開かれました。27 年度一般会計補正予算を始めとした 20 議案のほか、26 年度各会計の決算認定 16 件、同意 2 件、報告 8 件、諮問 1 件が提出されました。そのほか、議発^① 2 件が審議されました。

【問】市政全般における決算の認識は。

【答】26 年度は「70 周年記念事業」や「B-1 グランプリ in 豊川」の経験を生かした新しいまちづくりのスタートの年で、28 年度から始まる第 6 次総合計画の策定に着手した。また、シ

ティセールの推進と新たな観光施策を展開するため

に観光基本計画を策定し、

地域資源を生かしたまちづくりを推進した。更なる躍

進に向けたスタートを切る

ことができたと認識してい

る。

【問】決算規模が拡大したことへの認識は。

【答】給付金の支給費、旧

市民病院跡地等の取得費、まちづくり振興基金積立が

主な要因となっている。いずれも市の活性化や自主財

源の増収につながるものと考えている。

【問】重点的に取り組んだ高齢化対策事業と成果は。

【答】在宅医療連携拠点推

進事業では、検討部会などで協議を行い、今後の取

組みの方向性と市や関係機

関の役割を明記した「在宅

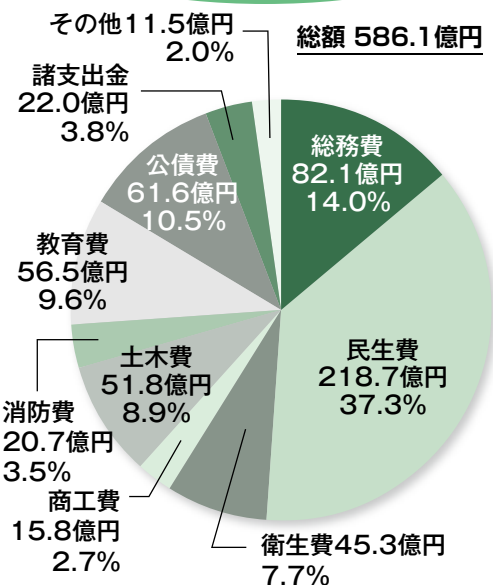
医療・介護の連携に関する

提言」を取りまとめ、着実

な取り組みの方向性を示した。地域包括ケアモデル事

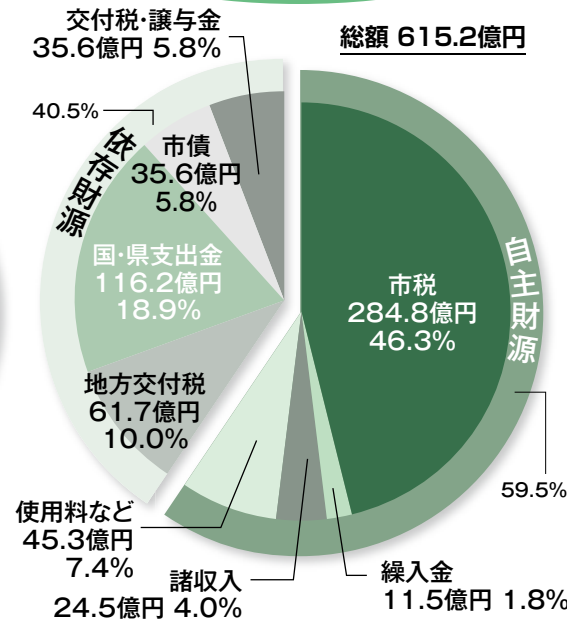
業では、処遇困難事例の検討を通じ、地域の課題やニ

一般会計歳出



※数値は四捨五入してあり、合計は一致しません。

一般会計歳入



①議発
議員が提案した議案。

平成 26 年度一般

26年度各会計決算の状況

会 計 名			収入済額	支出済額
一 般 会 計			615億1,837万円	586億630万円
特 別 会 計	豊川西部土地区画整理事業		8億4,577万円	2億9,524万円
	豊川駅東土地区画整理事業		6億9,303万円	5億1,113万円
	公 共 下 水 道 事 業		48億8,538万円	45億9,911万円
	農 業 集 落 排 水 事 業		1億7万円	8,785万円
	公 共 駐 車 場 事 業		1億286万円	9,757万円
	国 民 健 康 保 険		180億1,625万円	169億8,839万円
	後 期 高 齢 者 医 療		19億6,971万円	19億6,008万円
	介 護 保 険		115億3,633万円	114億3,899万円
	土 地 取 得		762万円	103万円
	一 宮 財 産 区 管 理 事 業		142万円	54万円
	赤 坂 財 産 区 管 理 事 業		357万円	98万円
	長 沢 財 産 区 管 理 事 業		465万円	224万円
	萩 財 産 区 管 理 事 業		1,344万円	666万円
企 業 会 計	水 道 事 業	収 益 的	35億8,805万円	31億3,552万円
		収 本 的	2億9,206万円	20億2,795万円
	病 院 事 業	収 益 的	139億5,318万円	196億1,132万円
		収 本 的	7億9,367万円	7億1,737万円
	合 計		1,183億2,544万円	1,200億8,827万円

※1万円未満は四捨五入しており、合計額は一致しません。

【答】公共工事は、全体で289件、うち市内業者が267件で92%。委託等は、全体で300件、うち市内業者が110件で37%。物品購入は、全体で64件、うち市内業者が30件で47%。委託等と物品購入では市内業者が入札できない特殊な案件が多くあり、市内業者の受注率が低くなっている。

【問】監査委員が指摘した事項の改善状況と改善されるまでの対応は。
【答】改善された事項については、措置状況の報告書が監査委員に提出される。早期に措置が完結できない場合は、3カ月以内に対応状況の報告を求め、その後も措置が完結するまで措置状況の報告を求めている。

反対!!

所得の底上げにつながる施策、社会保障の充実など、市民の暮らしを積極的に支援することが求められたが、市民のために使う財源が抑えられている。雇用面では、クラス担任を持つ臨時保育士の処遇は若干改善されたが、半分が非正規という状況は改善されていない。東三河広域連合では、介護保険事業の準備が始まったが、市民の声が届きにくくなるのは明白である。また、給付の削減と負担増につながる可能性があり、反対する。

主な討論

平成26年度一般会計
決算の認定

賛成!!

第5次総合計画に基づいた施策を着実に推進し、社会的な問題の地方創生も補正予算で対応されている。防災対策では、防災マップ、洪水ハザードマップが全戸配布され、迅速に対応されている。教育関係では、小中学校のトイレの洋式化など学習環境の整備が進められ、また、高齢者対策では、在宅医療連携拠点推進事業等が実施され、高齢者にとって住みやすい環境づくりが推進されている。引き続き健全な財政運営を要望し、賛成する。

※会派別賛否の状況については、7ページの議決状況の一覧でご確認ください。

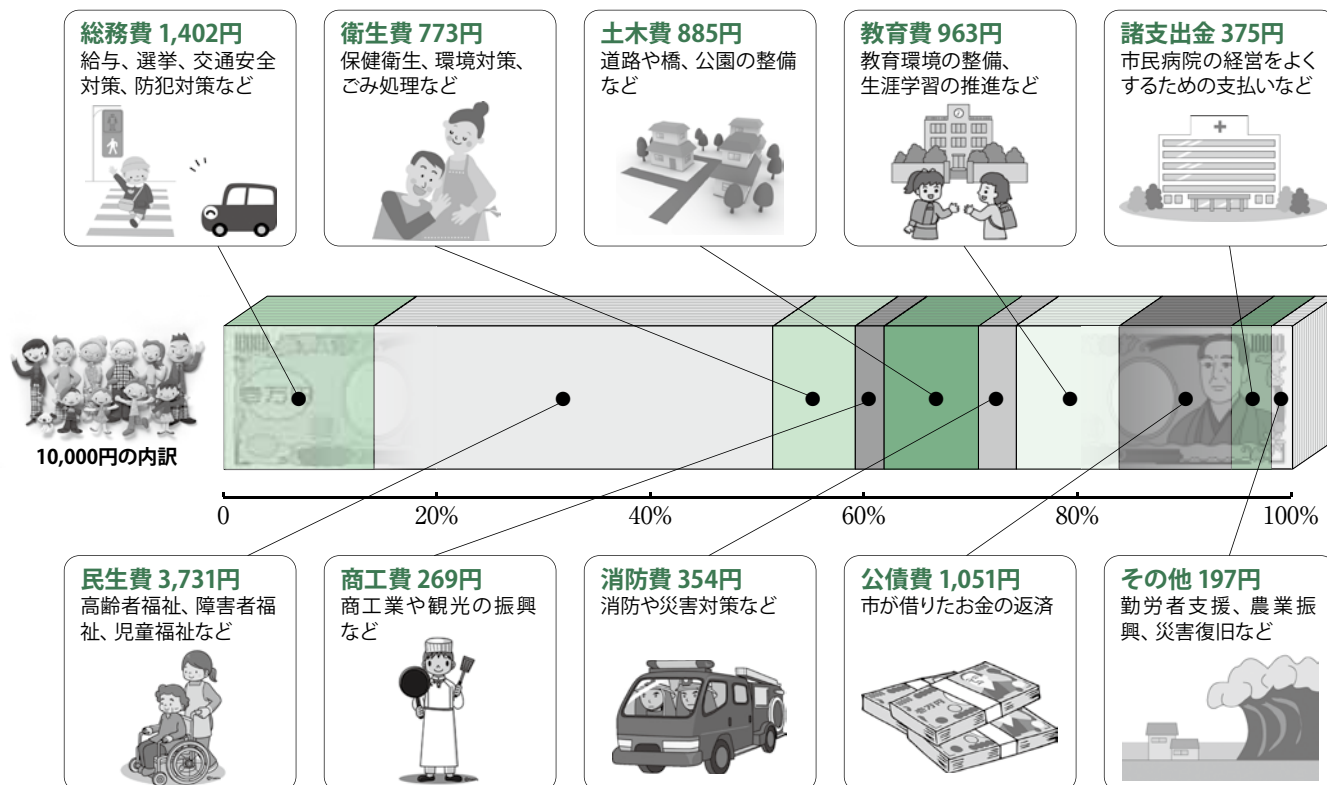
賛成



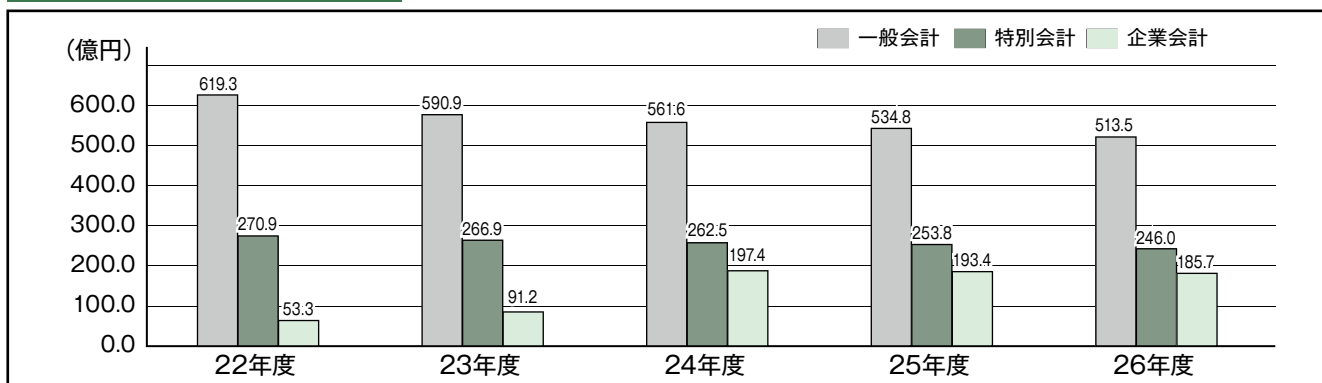
反対



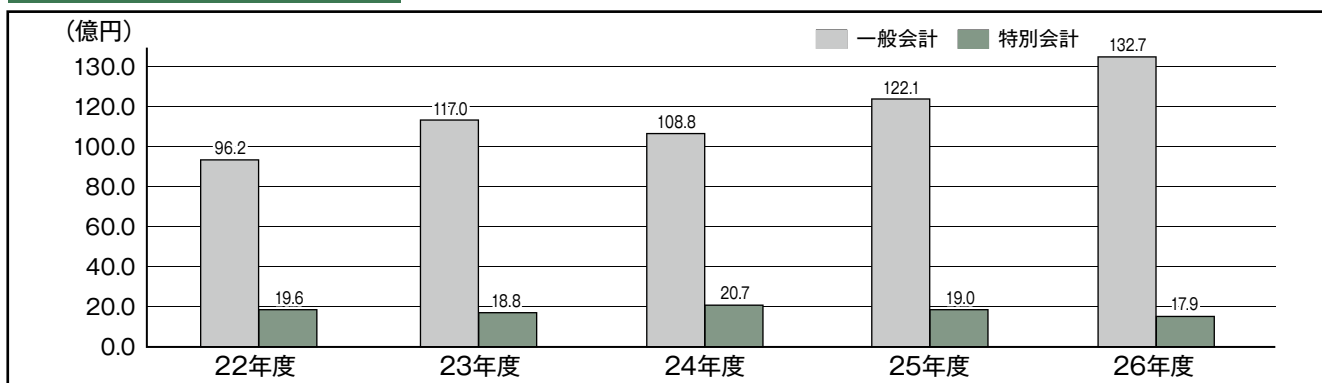
10,000円に置きかえて、皆さんの税金が何に、いくら使われているか見てみましょう。



市債（借金）の5年間の推移



基金（貯金）の5年間の推移



主な事業

26年度決算の総括

日本経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」のいわゆる『三本の矢』の一体的推進により、緩やかな回復基調が続いているものの、個人消費等に弱さがみられ、年度前半には実質GDP成長率がマイナスとなりました。

本市においては、26年5月に策定した「豊川市中期財政計画」により、積極的な財政の健全化に取り組むとともに、第5次総合計画に基づいた各種施策について「選択と集中」を引き続き推し進めることにより、適正な財政運営に取り組みました。



桜ヶ丘ミュージアム改修

6 億 6,969 万円



小中学校トイレ洋式化・ドライ化（桜木小・御津中）1 億 876 万円



消防ポンプ自動車等購入（3 台）4,212 万円
化学消防ポンプ自動車購入 5,916 万円



防災マップ、洪水ハザードマップ、啓発用パンフレット作成 1,154 万円